



ふるさと笠松の「ちょっといい話」No.74



「ご夫婦で60年間、土岐塚を守る。」



↑「土岐塚」のお世話をしている田島さん

笠松町無動寺にある「土岐塚」を60年間の長きにわたって守ってみえる、心ある方がおみえです。その特別な方は田島友行様ご夫妻です。

今から60年前には「土岐塚」は誰からも忘れられ、熊笹や雑草におおわれていたそうです。近所に住んでいる田島様ご夫妻は、その様子を見てたいそう不憫に思われて、4、5日かけて熊笹を刈り取り、雑草を引き抜きました。おかげで「土岐塚」はすっかり昔の姿を取り戻すことができました。

その後、田島家の月命日には、光得寺の和尚さんに一緒にお経を上げていただいていた時期もあったそうです。

今でも草取りや枝打ちだけではなく、お花を供えたり、お線香を上げたりして「土岐塚」を願ってみえます。田島さんの願いは、町民の方が塚に関心を持って、足を運んでくださるのだそうです。



「土岐塚」とは誰のお墓でしょう？

土岐塚は斎藤道三の娘の婿である土岐頼香（よしか）のお墓です。土岐氏は美濃の守護として国を治め、一族は繁栄していました。ではだれが土岐頼香を殺したのでしょうか。

天文13年（1554年）9月、尾張の織田信秀（織田信長の父）が美濃に攻め込んできました。光得寺に砦を構えて、織田信秀をむかえたのが土岐頼香です。この戦いを無動寺の戦いといいます。その頃、斎藤道三は羽島市に陣を張っていましたが、土岐氏を滅ぼそうと考え、家来に命じて無動寺に陣取っていた土岐頼香を殺害させました。

大将を失った美濃勢は退散し、土岐頼香は光得寺の隣のヤブに葬られました。これが土岐塚です。（つまり頼香は義理の父親によって殺されたのです。）



「報・連・相(ほう・れん・そう)」とは？・・・ホウレン草(菠薐草)はイラン原産の野菜です。おひたしにするとおいしいですね。ここで言っている「報・連・相」ということは「報告・連絡・相談」の略です。会社や園・学校などの組織においては、何か出来事や事件があったときには、この「報・連・相」がとても大切だと言われています。しかし、「報告・連絡・相談」の順序は、まず連絡、あるいは相談で、報告は最後であるべきです。なぜなら、「報告」は報告書というように、事実関係を整理してから行われるものです。「連絡」は、とりあえず分かっているあらましを伝えることなので、当然報告より先に行われます。つまり、この順序でいえば、「連絡・相談・報告」になりますね。

●心あたたまるいい話●それは★意外な話★ピンチに天使が舞い降りた話

☆いい言葉は人生を変える。☆険しい道があなたをゴールに導いてくれる。フランス・ペーゴン

人生は道路のようなものだ。一番の近道は、たいてい一番悪い道だ。人生を道にたとえた哲学者フランス・ペーゴンは、辛く苦しいと感じた道こそが人生の目標への近道なのだと教えてくれました。

※皆さんから「ちょっといい話」を募集しています。笠松中央公民館担当まで電話やFAXなどで連絡をお願いします。



「町民運動会で、中学生ボランティア大活躍！」

去る10月6日(日)に実施されました笠松町民大運動会では、70名ほどの中学生ボランティアが大活躍しました。当日はおそろいのオレンジTシャツに身を包み、審判、出発、記録、器具の運搬や場内整備など、若者らしくきびきびと働いてくれました。おかげで競技はスムーズに進行することができました。暑い中、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。その活躍の一部を写真で掲載いたします。

